

## 4.2 平成18年度シンポジウム

当プロジェクトでは、下記の要領でシンポジウムを開催した。

平成17年度・大都市大震災軽減化特別プロジェクト  
テーマ 震動台活用による建造物の耐震性向上 シンポジウム

### 目的：

本シンポジウムは、「大都市大震災軽減化特別プロジェクト 震動台活用による建造物の耐震性向上研究」に関する平成17年度の成果の公表と関連する情報や意見の交換を目的としており、同じ分野の研究に取り組む方々との活発な討議・意見等を、今後の研究に反映していく事を考えている。

今回のシンポジウムでは、本テーマの原点にある、地震動と被害、耐震設計について認識を深めると共に、利用者へのE-ディフェンスの情報発信を行う。

また、プロジェクトの成果報告と共に、平成18年度に実施予定のE-ディフェンスでの実大震動実験についてオープンな討議を行う。

主催：文部科学省 共催：独立行政法人防災科学技術研究所

### 実施要領：

日時：平成18年8月4日（金） 10:00～17:00

場所：世界貿易センタービル 3F Room A

配布資料：プレゼン PPT ファイルを収録した予稿集

### スケジュール

10:00～10:10	開会挨拶	文部科学省研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長 阿部浩一
10:10～10:30	大都市大震災軽減化特別プロジェクト 震動台活用による建造物の耐震性向上	防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター 副センター長 佐藤正義
10:30～12:00	木造建物実験	司会：坂本功（慶応大学教授・防災科客員研究員）
10:30～10:45	大大特木造建物実験について	箕輪親宏（防災科学技術研究所）
10:45～11:00	第3ステージ「移築した木造家屋の震動台による耐震補強性能検証実験」 移築と実験の概要	梶本敬大（国土技術政策総合研究所）
11:00～11:15	大大特木造建物実験第3ステージ実験	河合直人（建築研究所）
11:15～11:35	第3ステージ解析および第1ステージ全体	三宅辰哉（日本システム設計）
11:35～12:00	第2ステージ全体 京町家振動台実験	鈴木祥之（京都大学防災研究所）
12:00～13:00	昼食	
13:00～14:30	鉄筋コンクリート建物実験	司会：松森泰造（防災科学技術研究所）

- 13:00～13:10 鉄筋コンクリート建物に関する研究の概要 壁谷澤寿海(東京大学地震研究所)
- 13:10～13:45 平成17年度鉄筋コンクリート造実大6層耐震壁フレーム構造の震動破壊実験  
松森泰造(防災科学技術研究所)
- 13:45～14:00 実大鉄筋コンクリート建物の三次元動的解析システムの開発  
-実大RC実験の予備解析- 陳少華(防災科学技術研究所)
- 14:00～14:15 鉄筋コンクリート造実大壁フレーム震動実験-シミュレーション解析-  
金裕錫(東京大学地震研究所)
- 14:15～14:30 基礎の浮上りを考慮した付帯フレーム付連層壁構造の水平抵抗機構と損傷評価  
河野進(京都大学)
- 14:30～14:50 休憩
- 14:50～16:20 地盤・基礎実験 司会:時松孝次(東京工業大学教授・防災科研客員研究員)
- 14:50～14:55 挨拶 時松孝次(東京工業大学)
- 14:55～15:00 E-ディフェンスにおける地盤基礎実験の概要(平成17年度)  
佐藤正義(防災科学技術研究所)
- 15:00～15:10 E-ディフェンス実験の関連研究 -室内試験- 安田進(東京電機大学)
- 15:10～15:20 E-ディフェンス実験の関連研究 -地盤変位計測-  
液状化地盤の側方流動と群杭との相互作用 東畑郁生(東京大学)
- 15:20～15:30 E-ディフェンス実験の関連研究 -遠心載荷実験-  
時松孝次(東京工業大学)
- 15:30～15:55 E-ディフェンスによる実践研究1 -水平地盤実験-  
佐藤正義(防災科学技術研究所), 福武毅芳(清水建設)
- 15:55～16:20 E-ディフェンスによる実践研究2 -側方流動実験-  
田端憲太郎(防災科学技術研究所), 洞岡良介(東北大学)
- 16:20～16:50 全体討議(木造建物実験, 鉄筋コンクリート建物実験, 地盤基礎実験)  
司会:佐藤正義(防災科学技術研究所)
- 16:50～17:00 閉会の挨拶 小中元秀(防災科学技術研究所 理事)

以下に、全体討議での議事を示す。

- ・ 3つの実験プロジェクトの目的は、対象が異なるのでバラバラのように見えるが、それぞれを横にらみなしながら、役立つ情報交換を行い成果を上げていって欲しい。
- ・ 木造の耐震補強実験は結果オーライ的なところがあるので、得られたデータの詳細な解析を行い、役立つ成果が出せる地道な研究を遂行していく。
- ・ 土槽を含めた実大規模の地盤実験システムが構築できたので、ベンチマークとして長く使える実験を実施し、成果を社会に貢献(設計に反映)できるようまとめていきたい。
- ・ 詳細な解析による成果の創出は先になると考えられるが、データ公開を早くすることも、成果の社会貢献の一つと考えられる。



開会の挨拶



成果報告(木造)



成果報告(RC)



成果報告(地盤基礎)

